様式 2

令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター
芸術資源活用プロジェクト　実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトのタイトル	かたちのないものを収蔵する―記録収蔵作品の事例研究	
実施責任者（申請代表者）	氏名	所属／学年／役職 （所属がない方は未記入）
	中江　花菜	東京藝術大学共創拠点推進機構　特任助教
実施期間	２０２３（令和５）年４月１日　～　２０２４（令和６）年３月３１日	
実施内容 ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 （500～600 字）	本プロジェクトは、ワークショップ、パフォーマンス、アーカイブなど「かたちやモノのない」作品の収蔵や今後の活用を検討するための基礎研究である。本研究は以下の手順で行った。①東京芸術大学収蔵作品における記録収蔵作品において「記録資料のみ収蔵」とされる作品について、作品タイプと大学への納入物について整理・分析を行った（１０件）。作品と納入物の確認には、大学美術館年報と買上作品基礎カード（作品調書）を使用した。②ワークショップとアーカイブから構成される、坂田ゆかり《ない者の場／ない場の地図（日本語版）》について、買上展（2023年、於大学美術館）での再展示後に、申請者（中江）が運営時に作成した資料と作家と振り返りを踏まえて、作品再展示のアーカイブを制作した。③国内・国外美術館でのパフォーマンス作品の収蔵・活用事例を文献・聞き取りによって調査した。④令和３年度収蔵作家である中川麻央によるパフォーマンスの再演を視察することが叶った。⑤上記の調査を統合し、「記録収蔵」となりうる作品の傾向や、「記録収蔵」となった作品の活用を提案する準備を整えた（発表は６月の成果報告会で行う）。	
実績報告 ※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。 （500～600 字） ※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。 （必須）	東京芸術大学にて「記録収蔵」された作品には、ワークショップ、パフォーマンス、アーカイブ、太陽光や木漏れ日を利用した環境芸術作品だけでなく、自作機械を用いたインスタレーション作品なども含まれることを確認した。後者は「モノ」があるが、何らかの理由で納入に至らず、代わりにコンセプトを伝えるために記録が収蔵されたと捉えることも可能だろう。東京藝術大学での作品収蔵のプロセスは、手順や手続き期間において他の公立美術館のそれとはまったく異なる。記録収蔵とする作品は、選考を行った学科・作家・美術館の三者で「作品の本質がどこにあるのか」共有・理解し、今後の活用のためどのような記録を残すべきか検討することが肝要である。そして可能な限り早い時期に再展示を行い、収蔵時の作品調書をアップデートして後世へ作品情報をつなげることが好ましい。同じく「かたちのない（あるいは変化する）」作品である国立国際美術館所蔵のパフォーマンス作品であるアローラ＆カルサディーラ　《Lifespan》や、金沢21世紀美術館所蔵のプロジェクト型作品である奈良美智《Dog-o-rama》はたびたび再展示され、多くの人の目に触れることで作品の本質が広く認知されているからだ。 なお本プロジェクトで扱った記録収蔵作品である、坂田ゆかり《ない者の場／ない場の地図（日本語版）》の事例について論文として発表予定である（本学社会連携センター『arts＋』投稿予定）	

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。（必須ではありません）

（記録資料のみ収蔵）